

平成26年度 札幌市行政評価

**市民参加の取組（ワークショップ）  
報告書**

平成26年9月実施

札幌市 市長政策室



## 目次

・ 市民参加の取組の概要 .....	39
1 . 市民参加の取組の概要 .....	39
2 . ワークショップにおける議論のテーマ .....	40
( 1 ) 行政評価委員会における評価対象の選定 .....	40
( 2 ) ワークショップのテーマの設定 .....	41
3 . 参加者について .....	42
( 1 ) 参加者の選定方法 .....	42
( 2 ) 参加者の属性 .....	43
4 . ワークショップ開催までの流れ .....	44
5 . 対象テーマ事前勉強会の概要 .....	45
・ 市民参加ワークショップの結果 .....	46
1 . プログラム .....	46
2 . ワークショップの進め方 .....	47
・ 各テーマの議論のまとめ .....	50
1 . 地域防災力の強化について .....	50
( 1 ) 主な論点 .....	50
( 2 ) 提案のまとめ .....	50
2 . 札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて .....	53
( 1 ) 主な論点 .....	53
( 2 ) 提案のまとめ .....	53
・ ワークショップのグループ議論の記録 .....	56
1 . 地域防災力の強化について .....	56
2 . 札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて .....	66
・ 参加者名簿 .....	76
・ 参加者アンケートのまとめ .....	77
・ 対象テーマ事前勉強会の記録 .....	81
1 . 対象テーマ事前勉強会での説明内容 .....	81
2 . 対象テーマ事前勉強会での質疑の概要 .....	83
・ ワークショップ当日と対象テーマ別勉強会で使用した資料 .....	89
1 . 地域防災力の強化について .....	89
2 . 札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて .....	99

# I. 市民参加の取組の概要

## 1. 市民参加の取組の概要

### ◆実施の目的

札幌市では、行政評価における外部評価の取組として、「市民参加の取組」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」を実施しています。

外部評価は、市役所内部の評価による客観性や透明性を確保するための取組で、この「市民参加の取組」は、市民の皆さまに札幌市の取組への理解を深めていただくとともに、行政評価へ直接参加する市民自治の実践の場とすることを目的としています。

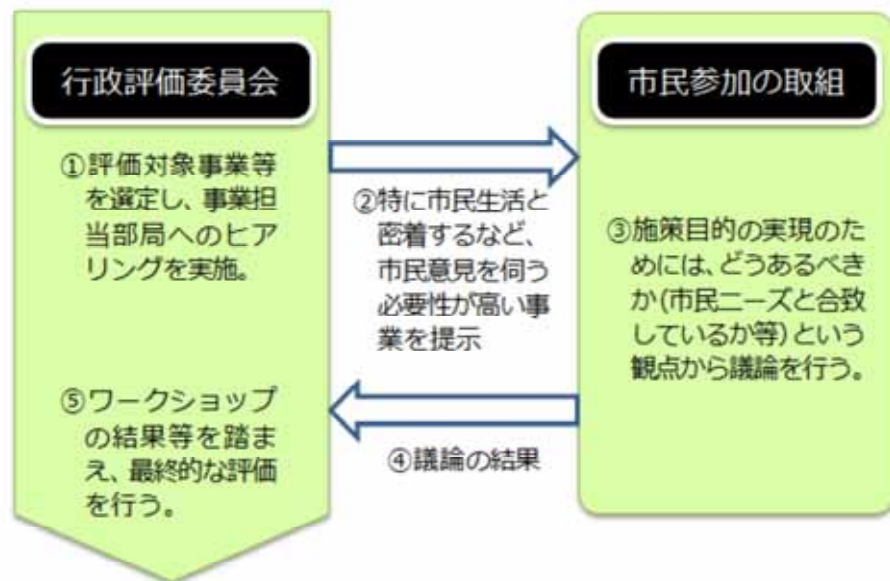
### ◆取組の進め方

今年度の「市民参加の取組」は、行政評価委員会における評価対象事項のうち、特に市民目線・市民感覚を踏まえる必要性が高いテーマについて、施策目的の実現のために、市の取組はどうあるべきかという観点から市民の方に意見交換（ワークショップ）を行っていただき、市民の方のご意見・ご提言を伺うこととしました。

### ◆成果の活用

ワークショップにおける議論の結果は、行政評価委員会に報告されます。

行政評価委員会では、その専門的な知見からワークショップにおける議論の結果についての検討を深め、委員会として最終的な評価を行い、報告書にまとめる形で結果を活用します。



※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解しあいながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」のこと。

## 2. ワークショップにおける議論のテーマ

### (1) 行政評価委員会における評価対象の選定

行政評価委員会における評価の対象となった施策のうち、「市民参加の取組」の対象は、「地域防災力を結集した災害対策」と「魅力あふれる都市のまちづくり」の二つを選定しました。その選定理由は次のとおりです。

#### ◆地域防災力を結集した災害対策

札幌市では、危機管理対策室を設置し、地域防災計画を策定するなど災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

これまで、東日本大震災をはじめ、過去に発生した災害の被害状況などを踏まえ、避難所や備蓄物資などの環境整備のほか、地域防災計画の整備や各種ハザードマップ（災害予測地図）の作成、防災知識の普及啓発などにより、災害対策の充実を図ってきました。

こうした行政の取組は欠かせませんが、一方で、災害が発生した際に重要となるのが、地域住民が自主的に行う防災活動や、災害に対する市民一人ひとりの日ごろの備えです。地域の自主防災組織などを中心とした地域の防災力を強化し、また市民の防災への意識を高めることが、札幌市全体の防災力を高めることに繋がると考えられます。

札幌市では、こうした地域防災力を高めるべく、市民の方に対し、普及啓発の取組を行っていますが、防災活動の担い手の確保や市民意識の向上などの点で、まだ課題があるのではないかと考えられます。

以上の点から、「地域防災力を結集した災害対策」に関連する施策・事業について議論することが重要であると考え、行政評価委員会として評価対象に選定しました。

#### ◆魅力あふれる都市のまちづくり

これまで札幌市のまちづくりは、人口増加などに対応するため計画的に市街地を整備、拡大してきたところです。しかし、人口減少・超高齢社会の到来、生産年齢人口の減少といった社会経済情勢の変化、地球環境問題などに対応するため大きな転換が求められています。

こうした状況を踏まえ、札幌市のまちづくりに関する計画である「札幌市都市計画マスタープラン」「都心まちづくり計画」「都市景観基本計画」「景観計画」が見直される予定です。

将来を見据えた札幌の都市構造のあり方や札幌の都心の魅力を今後どのように高めていくかということは大変重要な施策であると考え、「魅力あふれる都市のまちづくり」に関連する施策・事業を行政評価委員会として評価対象に選定しました。

## (2) ワークショップのテーマの設定

「市民参加の取組」の対象とした事業について、ワークショップのテーマを次のように設定しました。

### ◆地域防災力を結集した災害対策 関係

テーマ：「地域防災力の強化について」

#### 設定理由

札幌市において想定される最大級の地震は市街地の広い地域で震度 6 弱以上の強い揺れとなることが予測されていますが、委員会の議論の中で、災害に対する備えを行っている家庭の割合が約 70%に止まっていることがわかりました。

災害への備えについては、避難所や備蓄物資などのように、行政が取るべき対策も必要です。しかしながら、災害発生時には、市民一人ひとりが主体的に行動できる準備・体制が整っていること、自主防災組織などの地域住民による助け合いで防災活動を行うことが、被害を最小限にとどめるために大変重要です。

少子高齢社会、防災活動の担い手不足などの課題もある中、地域における防災力をさらに向上させていくため、その課題や目指すべき方向性を市民の皆さんと共有し、一緒を取組を進めていくことを目指して、今回のワークショップにおける議論のテーマを「地域防災力の強化について」としました。

### ◆魅力あふれる都市のまちづくり 関係

テーマ：「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」

#### 設定理由

多くのイベントが開催され、様々な商業施設が集積する大通を中心とした都心部は、国内外の観光客が訪れるとともに、市民の皆さんが集い・活動する場でもあり、誰もが札幌の魅力に触れることのできる重要な地区であります。

現在、地下歩行空間を多くの市民が行き交い、各広場ではにぎわいが生まれています。また、今年新たに北 3 条広場が完成し、さらには北 1 西 1 街区には市民交流複合施設が建設される予定であり、都心部には多くの魅力ある空間が誕生します。

しかし、新たな空間は完成して終わりではなく、いかに活用を図るかということが重要になります。また、その空間を個別に活用するのではなく、有機的に連携させながら活用し相乗効果を図ることが、都心部の魅力を向上させることに繋がると考えています。

こうした活用の検討を行っていくためには、各地域の特性を熟知した地域住民や企業などの関係者や多くの市民の皆さんとともに考えて行くことが必要です。

都心部の空間の有効活用を図り、魅力ある都心のまちづくりを進めていくため、その課題や目指すべき方向性について市民の皆さんと共有し、札幌市と市民の皆さんが一緒を取組を進めていくことを目指して「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」としました。

### 3. 参加者について

#### (1) 参加者の選定方法

ワークショップの参加者の選定にあたっては、ドイツで考案された市民討議の手法で、政策判断に有効とされる「プランニング・セル※」を参考にし、無作為抽出の市民に参加者募集のご案内を送付した上で、以下のとおり選定しました。

- ・参加者募集のご案内送付：無作為抽出の市民 3,000 名
- ・参加定員：最大 100 名程度
- ・参加決定者：72 名
- ・当日の参加者：52 名

#### ●参加者募集のご案内の概要

○参加資格（以下の全てを満たす方）

- ・「参加承諾書」をご提出いただいた方
- ・現在札幌市在住の方（転居等で札幌市外へ転出された方は応募できません）
- ・札幌市職員ではない方
- ・事前勉強会に出席できる方
- ・ワークショップは公開で行い、報道機関による撮影や傍聴者が会場に入ること、参加者個人が特定できる形で記録を公開する必要があることに承諾いただける方

○謝 礼：SAPICA（1,500 円分入金）

○その他

少しでも多くの方に参加いただけるよう、事前勉強会やワークショップ当日は託児室を設けること、車いす使用等でお手伝いが必要な場合は対応可能な旨を付記しました。

また、ワークショップの実施にあたっては、各テーマについて、多角的な視点から意見をいただくため、参加者を以下のグループに分けて、議論を行いました。

	参加者数	グループ数	1グループの人数
午前（地域防災力の強化）	27 名	5	5～6 名
午後（都心のまちづくり）	25 名	5	5 名
計	52 名	10	—

※プランニング・セル：無作為抽出の市民に謝礼を支払って参加していただき、少人数で議論を行う手法で、無作為抽出により選ばれた参加者は、性別、年齢、居住地などの面から市民の縮図となるため、少人数であっても、市民意見を代表する公平な議論が行なわれることが期待される。

## (2) 参加者の属性

ワークショップ当日の参加者の属性については以下のとおりです。グループ編成については、年齢や性別、居住区などの属性ができるだけ異なるようバランスに配慮しました。

### 【性別・年代別】

対象テーマ	年代							総計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代		
地域防災力の強化	0	2	0	2	10	13	27	
男性	0	1	0	2	4	8	15	
女性	0	1	0	0	6	5	12	
都心のまちづくり	2	1	4	3	10	5	25	
男性	1	1	2	2	5	3	14	
女性	1	0	2	1	5	2	11	
総計	2	3	4	5	20	18	52	
男性	1	2	2	4	9	11	29	
女性	1	1	2	1	11	7	23	

(単位：名)

### 【居住区別】

対象テーマ	居住区										総計
	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	
地域防災力の強化	5	1	5	2	0	6	4	3	1	0	27
都心のまちづくり	6	5	2	2	2	1	2	1	2	2	25
総計	11	6	7	4	2	7	6	4	3	2	52

(単位：名)



ワークショップの様子（地域防災力の強化）



ワークショップの様子（都心のまちづくり）



#### 4. ワークショップ開催までの流れ

平成 26年 7月	中旬	参加者募集のご案内を発送
8月	上旬	参加申込返送締め切り
	中旬	参加受諾者への参加決定通知発送
	下旬	行政評価委員会による事業担当部局へのヒアリング
9月	上旬	参加者への事前送付資料発送
	中旬	<p>対象テーマ事前勉強会 9/10（水）</p> <p>◆午後の部 13：30～15：30</p> <p>◆夜間の部 19：00～21：00</p>
	下旬	<p>「市民参加ワークショップ」 9/28（日）</p> <p>◆9：30～12：30</p> <p>テーマ①：「地域防災力の強化について」</p> <p>◆13：30～16：30</p> <p>テーマ②：「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」</p>

## 5. 対象テーマ事前勉強会の概要

市民参加の実施にあたり、議論に必要な情報をあらかじめ得ていただき、当日の議論の時間を十分に確保するため、対象テーマ事前勉強会をワークショップの実施前に開催しました。

勉強会では、行政評価の取組や、市民参加の取組の位置づけなどについて説明した後、各テーマについて札幌市の担当部局から関連する施策や札幌市の取組について説明し、質疑応答を行いました。

また、勉強会は、時間帯を変えて2回開催し、参加者の都合がつく回に出席いただきました。当該勉強会で使用する資料については、事前に目を通していただくため、開催前に郵送しました。

開催日時：平成26年9月10日（水）

午後の部 13:30～15:30／夜間の部 19:00～21:00

開催場所：札幌市役所12階 1～4号会議室

参加人数：午後の部 39名（地域防災力の強化20名、都心のまちづくり19名）

夜間の部 16名（地域防災力の強化8名、都心のまちづくり8名）

※急用などで当日ご参加いただけなかった方には、別日程で個別に実施しました。

開始時間	項目と内容
13:30～ (19:00～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■札幌市あいさつ</li> <li>■事務局等紹介</li> </ul>
13:40～ (19:10～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークショップの主旨を再確認しよう</li> <li>・行政評価とワークショップの位置づけ</li> </ul>
13:45～ (19:15～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークショップの進め方</li> <li>・『ワークショップ』とは、こんな話し合いの方法</li> <li>・今回の『ワークショップ』の進め方</li> </ul>
13:50～ (19:20～)	休憩
14:00～ (19:30～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークショップで対象とするテーマの説明</li> <li>・テーマ選定の理由説明</li> <li>・テーマに関連したこれまでの札幌市の主な取組・施策</li> </ul>
14:40～ (20:10～)	■質疑
15:25～ (20:55～)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ワークショップの参加にあたってのお願い</li> <li>■閉会あいさつ</li> </ul>
15:30 (21:00)	終了



対象テーマ事前勉強会の様子（午後の部）



対象テーマ事前勉強会の様子（夜間の部）

※かっこ内は夜間の部の時間

## Ⅱ. 市民参加ワークショップの結果

開催日時：平成 26 年 9 月 28 日（日）

9:30～12:30

テーマ①「地域防災力の強化について」

13:30～16:30

テーマ②「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」

開催場所：札幌市中央区民センター（札幌市中央区南 2 条西 10 丁目） 2 階 ホール

参加人数：テーマ① 27 名／テーマ② 25 名

### 1. プログラム

午前の参加者は「地域防災力の強化について」というテーマについて、午後の参加者は「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」というテーマについてワークショップを行いました。

テーマ①、テーマ②とも 5 グループに分かれて議論しました。

開始時間	項目と内容
9:30～(13:30～)	■札幌市開会案内 ■行政評価委員会委員紹介 ■行政評価委員長あいさつ
9:35～(13:35～)	■ワークショップの進め方の説明
9:40～(13:40～)	■各グループでのワークショップ 前半の議論（課題の抽出）
10:35～(14:35～)	休憩
10:45～(14:45～)	■中間発表
11:00～(15:00～)	■各グループでのワークショップ 後半の議論（提案の検討）
12:10～(16:10～)	■各グループの成果発表とまとめ
12:25～(16:25～)	■終了あいさつとアンケート記入のお願い
12:30(16:30)	終了

※かっこ内は午後の部の時間



行政評価委員会吉見委員長（北海道大学大学院経済学研究科教授）あいさつ

## 2. ワークショップの進め方

ワークショップは以下のように進めました。また、議論の途中で市の施策や事業について疑問点が出て来た場合は、ヘルプ旗をあげて担当部局の職員から説明を受けました。

ワークショップは、「みんなが発言できるように、一人の発言が長くなりすぎないようにお互い配慮する」「他の人の意見にしっかり耳を傾け、自分と意見が違ってても否定しない」などのルールに従って行われました。また、各グループに配置されたテーブルファシリテーター（グループ議論の進行役）は、議論が本題に沿って進められ、みんなが発言しやすいように、また参加者の発言をきちんと書き留め、議論が後戻りしないように配慮して進行しました。

### ●前半の議論（課題の抽出）

自己紹介の際に、テーマに関連したご自身の状況についてお話しいただきました。その後、テーマに関連して、日常の市民生活で感じていることや課題だと思われることについて、お一人ずつご意見をいただきました。テーブルファシリテーターが模造紙の上で意見をまとめ、さらにグループ内で議論を深めました。

地域防災力の強化について		<自己紹介シート>		5
お住まいの区 戸建てか、集合住宅か	町内会活動に参加していますか？ (例：行事に参加している、役員をしている、参加していない)	先日の講演の ご自身の状況	先日の講演の ご自身の状況	
中央区 マンション	町会→参加が少なく、祭り参加など	11月、12月の防災訓練	11月、12月の防災訓練	
豊平区(高台) マンション	60以上の会合に参加、花火大会	防災訓練に参加して、お話を聞きました	防災訓練に参加して、お話を聞きました	
豊平区 戸建	6、7年 防災訓練、昨日の町内会防災委員、昨日の町内会防災委員	3時に起きた 月曜日の水曜日の防災訓練に参加して、お話を聞きました	3時に起きた 月曜日の水曜日の防災訓練に参加して、お話を聞きました	
豊平区 戸建(2階建て)	10年ほど防災訓練に参加して、お話を聞きました	10年ほど防災訓練に参加して、お話を聞きました	10年ほど防災訓練に参加して、お話を聞きました	
豊平区 戸建	10年ほど防災訓練に参加して、お話を聞きました	10年ほど防災訓練に参加して、お話を聞きました	10年ほど防災訓練に参加して、お話を聞きました	



はじめに自己紹介で身近な話題からお話しいただき、テーマに関する意見を出しやすくします。

順番に発言いただき、その内容はファシリテーターが書き留めます。



グループごとに置かれたヘルプ旗



疑問点にはその場で回答を受け、議論の助けとなるようにします。

## ●中間発表

前半の議論の内容をグループごとに発表しました。



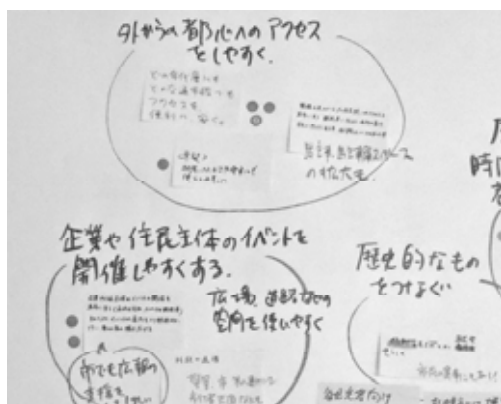
市民目線からのテーマに関するご意見や現在の「課題」について、グループごとの議論の内容を全体で共有しました。

## ●後半の議論（提案の検討）

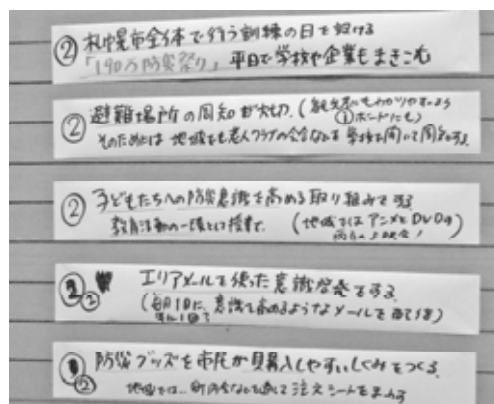
今後、札幌市の取組をより効果的に進めるための提案について議論を行いました。

初めに、お一人3枚程度、意見を付箋紙に記入していただきグループ内で発表し合いました。テーブルファシリテーターが追加意見も記入しながら意見をまとめました。その後、グループ内において、出された意見やくくりの言葉のうち、特に重要だと思う取組について、投票を行いました。（投票は、1人につき3票とし、3枚のシールを書き出された意見に貼り付ける方法で実施しました。なお、シール3枚のうち1枚は一押しシールとし、投票者が一番重要だと思う意見に貼り付けました。）

最終的には、シール投票の結果も参考にしながら、各グループで五つ程度の提案をまとめ、提案用紙に書き留めました。



今後重要だと思う取組について、各自シール投票



各グループでまとめられた提案



前半の議論の内容を各テーブル横に掲示し、出された意見を振り返りながら後半の議論を行いました

●全体での共有、確認

各グループでまとめられた五つ程度の提案を発表し、全員で確認しました。



各グループの提案のまとめの内容を発表しました。

### Ⅲ. 各テーマの議論のまとめ

#### 1. 地域防災力の強化について

##### (1) 主な論点

###### <前半の議論のポイント>

■これまで、皆さんはどのような時に「防災」について考え、日ごろ、どのような備えを行っているでしょうか。また、町内会など身近なところで行われている防災活動を耳にしたり、実際に活動に参加したことはあるでしょうか。市民一人ひとりが日ごろの備えや地域の防災活動に取り組んでいく上で、どのような課題があるでしょうか。

###### <後半の議論のポイント>

■札幌市では市民の皆さんの防災意識を高めるため、各種パンフレットやマップの制作、小中学生向け防災教材づくり、出前講座などを行っています。また、地域での自主防災活動を支援するため、活動体制が整った町内会へ活動資機材の支給や、防災訓練などの活動への支援を行っています。

しかし、災害による被害を最小限にとどめるためには、今後さらに地域の防災力を高めていく必要があります。前半の議論を踏まえ、市民一人ひとりが日ごろの備えや地域の防災活動に取り組んでいくために、札幌市が行う取組として、どのようなものが効果的と考えられるでしょうか。

##### (2) 提案のまとめ

各グループで後半の議論でまとめられた提案の全ては以下のとおりで、関連する内容ごとにまとめました。

市民への意識啓発の取組
・「死なないこと、ケガをしないことが大切」という言葉を、キャッチフレーズとして市民全体で広める、共有する。(グループ4)
・エリアメールを使った意識啓発をする(毎月1日、年に1回など、意識を高めるようなメールを配信。携帯電話会社や機種によってエリアメールが届かない人のチェックにも)。(グループ2)
・黄色いハンカチ全戸支給制度。被災時の安全確認結果を掲示するハンカチ(のようなもの)を市が全戸支給することで、市民全体で防災への意識を高めたい。また、「防災」という言葉ではなく「黄色いハンカチ」という別のキーワードにすることで市民が取り組みやすい工夫をしたい。(グループ4)
・今回の豪雨のような災害があった直後に、地域ごとの具体的な被害の内容をチラシや広報さっぽろなどで知らせ、防災に関心を持ってもらう。(グループ1)

- ・個人の意識が大事。防災に限らず、環境など大きな視点から市民が札幌の事を広く考えていくような意識啓発が大事。(グループ4)
- ・自助の意識を高めるため、防災の取組や課題を市民が話し合う全市的な意見交流の場を、継続的に設ける。(グループ3)

#### 防災関連資料を効果的に配布・活用する

- ・防災に関するパンフレットを、普段の生活で足を運ぶようなイベントやショッピングセンターに置くなど配布場所を工夫し、もっと市民の手に渡るようにする。(グループ1)
- ・自助の意識を高めるために、防災マップやマニュアルを全市民に届ける(全戸配布や広報さつぼろの活用など)。(グループ3)
- ・「見る」から「使える」資料に。防災の資料を配るだけではダメ。町会役員対象ではなく、市民一人ひとりを対象とした、行政の資料を使いこなすための防災講座や出前説明会を実施する。(グループ4)

#### 自助の備えを促すための支援

- ・防災グッズを市民が購入しやすい仕組みをつくる。地域では、町内会などを通して注文シートをまわす。(グループ2)
- ・自助の責任範囲はどこまでか、自助の最低限の備えとして、必要な物品などの情報提供が市からほしい。(グループ5)

#### 子ども達への防災教育の充実

- ・子どもたちへの防災意識を高める取組をする。教育活動の一環として、授業で行う。地域では人気アニメと防災DVDの両方の上映会をする。(グループ2)
- ・防災教材を学校で定期的に使ってもらうようにしたり、地域の防災訓練に子どもと一緒に取り組むなど、子どもたちに防災に興味を持ってもらえる工夫が必要。(グループ5)

#### 若い世代に向けた、地域の防災活動への関心を高める取組

- ・共助の意識を高めるため、日頃のつながりづくりが大切。例えば子どもと親が参加する行事を地域で開き、若い世代に意識を持ってもらうなどの取組も考えられる。こうした地域の活動に対して、市ができる支援メニューを示してほしい。(グループ3)
- ・出前講座をもっとPRして利用を促す。例えば、10分程度の分かりやすいメニュー(防災コント、寸劇など)を設定し、若い人や子ども達にも興味を持ってもらう。(グループ1)
- ・「防災ガール」などの、防災の問題に関心が低い世代が「自分ごと」として取り組むことができる様な面白いアイデアや取組を市が支援する。(グループ4)



#### 災害時の市と地域間の情報伝達方法の明確化

- ・市から地域（地域組織や携帯端末など）への情報の流れを明確にし、災害時の細かな情報発信ができるようにする（食料や水の届く時期やライフラインの情報など、きめ細かな情報が重要で、安心にも繋がる）。（グループ 5）
- ・地域の情報伝達体制をつくるためにも、市の防災専門課をつくり、情報発信をしっかりとしてもらう。（グループ 3）
- ・避難した家に旗を立てるなど、災害時の地域や個人の状況を市に伝える工夫が必要。（グループ 5）

#### 避難訓練に多くの市民や様々な機関を巻き込む取組

- ・札幌全体で行う訓練の日を設ける。「190 万防災祭り」。平日に開催し学校や企業も巻き込む。（グループ 2）
- ・全員が避難所訓練に参加できるように、市が音頭をとって、強化週間・月間を設け、市内の様々な組織が訓練を行い、参加しやすい時間帯、場所に参加できるようにする。（グループ 5）
- ・市から地域への情報の流し方、地域で情報を受けた後の動き方について、実際に訓練し動けるように備える。（グループ 3）

#### 危険箇所や避難場所の周知

- ・住んでいる地域の危険性を、もっと具体的に情報提供をして、実情に合ったアドバイスをする。（グループ 1）
- ・避難場所の周知が大切。観光客にもわかりやすいようインフォメーションボードにも入れる。地域でも老人クラブの会合などを学校で開いて周知する。（グループ 2）

#### 防災の取組を促す条例や制度づくり

- ・条例など防災の取組への強制力も必要。また、優れた取り組みをした企業等へのインセンティブを与える制度づくりを考える。（グループ 4）

## 2. 札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて

### (1) 主な論点

#### <前半の議論のポイント>

■現在、都心の魅力向上を図るため札幌駅、大通、創成東地区を中心としたまちづくり事業が進められています。札幌の都心について、日頃どのような印象をお持ちでしょうか。

○ここ数年で、札幌の都心でどのような変化を感じていますか。また、ご自分の都心での行動に変化はありましたか。

○札幌の都心の魅力や、課題だと思われるのは、どのようなことですか。

#### <後半の議論のポイント>

■都心のまちづくりにおいては、地域住民や企業などの関係者が参画し、都心の魅力向上に取り組んでいます。今後、都心の様々な空間や機能を連携させながら活用し、都心の魅力をより高めていくために、札幌市が行う取組としてどのようなものが効果的と考えられるでしょうか。

(取組の例)

- ・市民や観光客など、様々な人々が集い憩うことのできる広場空間の整備
- ・IT対応など高機能のオフィス、賑わいを生み出す商業施設が複合したビルがもっとつくられるための取組や支援
- ・広場や道路を活用して、地域の企業や住民などが主体となった賑わいづくりイベントを開催することができるような支援

### (2) 提案のまとめ

各グループで後半の議論でまとめられた提案の全ては以下のとおりで、関連する内容ごとにまとめました。

#### 誰もが安心して快適に歩けるようにするための整備や取組

- ・高齢者にとってバリアフリーな都心部に（体の不自由な人やお子さん連れにも）。（グループ2）
- ・高齢者を考えたまちづくりが大切。地下空間を活用しやすいよう、エレベーターやサインを工夫するなど、高齢者の移動しやすさに配慮する。（グループ3）
- ・高齢者、障がい者がもっと都心にアクセスしやすく、迷わずに安心して歩ける都心に（やさしい案内表示の見直し、停車スポット整備、観光客にも効果がある）。（グループ4）
- ・歩車分離の横断歩道を増やすなど、歩行者の安全性を高め、都心の魅力アップにつなげる。（グループ5）
- ・都心にふさわしいマナーのある自転車利用で、安心して歩けるまちに（啓発活動、自転

車専用道路（駅前通り）の整備、駐輪場整備）。（グループ 4）

- ・東豊線への連絡通路が長く不便なため、動く歩道にする。（グループ 1）

#### 都心の回遊性を高めるための交通環境の充実

- ・観光客や市民が都心を回遊しやすくするため、安く、便利に使える交通環境の整備を進める（安価な循環バス、路面電車の活用や延伸、観光バスの駐車場設置など）。（グループ 3）
- ・地下通路の延伸、市電の延伸、循環バスの路線増など、都心の回遊性を高めたい。（グループ 5）
- ・都心へのアクセスを便利に安く。駐車、駐輪スペースの拡大も。都心内のアクセスを便利に（駐輪場）。（グループ 2）

#### 歴史的建造物の活用と魅力向上のための取組

- ・新しいものをつくるというより、歴史的なものを残し、つなぎ、時間を経ると価値が出てくる都心に（時計台を生かす。かでの 2.7 のアイヌ歴史館や清華亭も）。札幌には大きな博物館がないが、ハコモノをつくるのではなく、都心を回遊して歴史を感じられるように。（グループ 2）
- ・まちの歴史を伝えるデザイン、建造物をうけつぐ。今ある魅力も PR していく。（グループ 3）
- ・歴史的建造物や観光スポットで良い写真が撮れるように、民間のビルなどに働きかけて、写真撮影ポイントを増やす（都心のガッカリポイントをなくする）。（グループ 1）
- ・時計台について、もっと緑豊かな場所への移転を検討できないか（北大構内など）。（グループ 1）

#### 文化機能の充実

- ・歌舞伎、能、雅楽など、多世代が文化を楽しめる場を整備する（条例を見直し、夜 11 時ごろまでイベントができるようになると良い）。（グループ 5）
- ・都心で利用できる図書館機能を充実して、都心の魅力をアップする（市民交流複合施設に入る図書館は中央図書館並みの規模がほしい）。（グループ 3）

#### 公園や広場の特色づくりと、魅力を PR する取組

- ・広場や拠点は、その場所ごとの特色づくりを。人が集えて、音楽や展示などアマチュアの市民も小発表ができるような空間活用になるとよい。（グループ 4）
- ・魅力的なスポットを増やし、人が行き交うようにする（駅前通りの地上部を歩いて楽しめるにぎわいのある通りにする、大通公園を使いやすく改善する、子どもが水を楽しめる創成川公園にする、狸小路の西側を活性化するなど）。（グループ 5）
- ・創成川公園をはじめ、新しい資源をもっと PR しよう（都心の中で水辺に親しめる緑がある、といったウリが市民に伝わっていないので）。（グループ 4）

#### 案内標示など、情報発信の充実

- ・その日のイベントや施設情報が一目で分かり、情報が更新できるような、観光客に親切で分かりやすい案内看板を札幌駅に設ける。(グループ1)
- ・都心での災害時の避難情報や、日頃の歩行者向けの情報などの発信を充実させる。(グループ5)

#### 拠点をつなぐ休憩空間づくり

- ・都心の拠点をつなぐ、小さな休憩できる空間があると良い(1人でも気楽に休めたり、オフィスに勤める人は弁当が食べられたり、リーズナブルな食とも連動している)。(グループ4)

#### イベントの開催支援

- ・企業や住民主体のイベントを開催しやすくする(広場や道路などの空間を利用しやすく、市でも広報の支援を)。(グループ2)

#### 都心全体に賑わいを広げる

- ・駅前通だけに都心のにぎわいが集中しないよう、まちの機能を東側の地区にも広げる。(グループ3)

#### 郊外との連携

- ・財政面を含め、郊外のこともしっかりと忘れないで(連携含め)。(グループ2)